

動くな、死ね、甦れ！ (1989)

ZAMRI, UMRI, VOSKRESNI!

FREEZE-DIE-COME TO LIFE

DON'T MOVE, DIE AND RISE AGAIN!

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ロシア

色彩 B&W

時間 105分

初公開日 1995/03/18

公開情報 ユーロスペース

リバイバル 2009/11/07 [エスパース・サロウ]

2017/10/07 [ノーム] (HDリマスター版)

【解説】

本作で90年カンヌのカメラ・ドール（最優秀新人監督賞）を受賞した時、カネフスキーは54歳だった。それ以前に短篇一作と、押しつけられた企画の長篇一本をものにはしているが、無実の罪で映画学校在学中に逮捕され、8年を獄中に暮らしたこの男の実質的なデビューはやはり本作からなのだ。

第二次大戦直後のソ連極東の収容所スーチャン。12歳のワレルカは母親と二人バラック暮らし。近所の同い歳の少女ガリーヤが列車の到着に合わせ開かれる市でお茶を売のを真似て、ワレルカも営業開始。貯めた金でスケート靴を買うが悪童たちに奪われる。雪の校庭で行進練習。と突然トイレが溢れ返り、悪臭が学校中に漂う。イースト菌を使ったワレルカの悪戯だった。その日帰宅すると母は愛人と情事に耽っており、彼女に片想いの隣人の炭坑夫はそれを覗いて憤然と立ち去る。言うなれば吹き溜まりのこの町。発狂した元学者は配給の小麦に泥を混ぜむさぼる。収容所では15歳の娘が特赦になると妊娠を望んで男に体を開く……。日本人捕虜も多く、ワレルカは彼らと親しい。連中が口ずさむ異国の童謡は少年の内なる主題歌だった。母に例の悪戯を白状させられたワレルカは学校を退学になった。腹立ちまぎれに以前殴られた機関士に復讐しようと、パチンコを持って出かけた彼。ふと、線路の連結を変えたのが大事故につながって、恐ろしさから貨車に飛び乗り祖母の家赶赴けば、新しい愛人のいる彼女は彼をとことん疎んじた。やがて、ウラジオストックで強盗団の仲間入り。だが、夏になって“守護天使”ガリーヤが彼を探し出し連れ帰る。しかし、故郷を目の前にし、彼らは後を追う強盗団の姿に気づかずにいた……。

映画の枠が描かれる物語に呑み込まれるような強烈なラストは、それまでの映画の終焉すら意識させる。傷だらけの登場人物たち。色彩に溢れたモノクロの撮影。すべて真実以上の真実。誰だって少年のその後を知りたいと願うから、監督は同じナザーロフとドルカーロフの主演で続編「ひとりで生きる」を撮ることになる。

【クレジット】

監督 ヴィターリー・カネフスキー Vitali Kanevsky

製作 アレクセイ・プルトフ

脚本 ヴィターリー・カネフスキー Vitali Kanevsky

撮影 ウラディミール・プリリャコフ Vladimir Briilyakov

N・ラズトキン N. Lazoutkin

音楽 セルゲイ・パネヴィッチ Serguei Banevich

出演 パーヴェル・ナザーロフ Pavel Nazarov

ディナーラ・ドルカーロワ Dinara Drukarova

エレーナ・ポポワ